

プロジェクト概要

(1) プロジェクトの背景・目的

上高地のホテルは春夏秋の3シーズンが営業期間であり、冬季は閉鎖となっています。夏は過去においては冷涼な自然条件から特に冷房設備を設ける必要がなく、春秋の低温期に補助的な暖房設備のみが必要とされてきました。近年においては温暖化に伴って夏季の冷房設備が利用客より強く要望されるようになり、また春秋の低温期の十分な暖房設備に対する要望も利用客より寄せられてきています。

この様な状況の中ホテル内別館棟では冷房設備は設けておらず、低温期には暖房設備として、電気ファンヒーターを使用して来ました。

今回冷暖房設備の設置を計画するに当たり、省エネルギー経済効果を考え現在主に風呂主体に利用している温泉と沢水の熱を利用することとしました。これまで本館の一部において温泉熱を利用した暖房器を設置し効果が確認されており（参照 現在までの自然エネルギー利用の取り組み）、別館棟にて本格的に導入することとしました。

このシステム導入による省エネルギー効果や電力使用量の削減効果を積極的にPRすることによって、温泉や沢水の熱を活用する取り組みを、上高地周辺の温泉旅館だけに限らず広く波及させることを目指します。

(2) プロジェクト内容

平成27年10月～28年3月の冬期間を利用し、上高地温泉ホテル全施設4825㎡のうち別館棟690㎡について冷暖房設備を設置します。部屋数は18室が対象です。温泉の源泉は73.1℃、湧出量は3820/分、沢水は10～11℃であり、これを熱源として利用します。館内に熱交換用の水槽を設置し、ここに沢水及び温泉水を引込み不凍液と熱交換を行なった後、各室に備え付けた放熱器（ファンコイルユニット）に冷温水を送り放熱させます。

(3) 期待される成果や継続性

今回のシステム導入によりエアコン等の電気使用システムに比べ1シーズンあたり146万円の電気料金が節約できるだけでなく、デマンドによる最大需要電力も1～2割抑えることが予想できるので、より一層の省エネルギー効果が見込めます。

また上高地周辺の温泉旅館や他施設に対しても指標となり波及効果も期待できます。利用客に対しても自然エネルギーを利用した冷暖房設備を設置していることをアピールすることにより、省エネルギーに対する取り組みへの理解が得られ、県外への波及効果も期待できます。

※ 添付資料 定款、構成員名簿、現在までの自然エネルギー利用の取り組み、コスト比較表、ホテル配置図、冷暖房設備設計図